

令和6年度 学校図書館活用計画・評価シート

足立区立弘道第一小学校 校長 鈴木 秀明

1 学校教育目標

心身ともに健康で、思考力・判断力・行動力があり、自立し共生しようとする心情あふれた児童を育成するため、人権尊重の精神に基づき次の教育目標を設定する。

私たちは、いつでも自分で考え、最後までやりぬきます。
そして、思いやりの心もち、世界中の人と仲よくできる人になります。
○やさしい子 ○考える子 ○元気な子

2 現状の学校図書館の課題

- ①学校図書館が隣り合って2つに分かれている。利用方法によっては、教室を移動する必要があるが生じている。
- ②読書に親しむ児童が多いが、貸出冊数を見ると、個人で差が大きい。
- ③読書活動の場として使用していることが多く、他教科の学習での利用をさらに促進していく必要がある。

3 今年度の学校図書館の目標

- ①読書活動の更なる推進を図る。児童一人当たり年間24冊（月2冊）以上の読書、並びに児童一人当たりの貸し出し冊数を年間20冊以上とする。
- ②調べ学習等、各教科学習での利用を広める。

4 今年度の重点取組

- ①年2回の読書旬間において、図書委員会児童の活動を主体的に行わせ、読書活動を推進する。
- ②学校図書館支援員と連携し、調べ学習の方法や、日本十進分類法に基づいた図書の見つけ方の指導をし、児童がより調べ学習を効率的かつ意欲的に行えるようにする。

5 教科等における年間指導計画（対象学年は○数字で記載）

教科	内容（学校図書館を活用して取り組む単元等）
国語	①としょかんへ いこう・としょかんと なかよし・どうぶつの赤ちゃん ②かんさつ発見カード・「お話びじゅつかん」をつくろう・「生きものクイズ」で調べよう ③図書館たんていだん・【じょうほう】引用するとき・おすすめの一さつを決めよう ④ ⑤図書館をつかいこなそう・みんなが使いやすいデザイン・作家でひろげるわたしたちの読書 ⑥ひろがる読書の世界
社会	④都道府県を調べよう・ごみのゆくえ ⑤さまざまな土地の暮らし・米作りの盛んな地域・くらしや産業をささえる工業生産・情報を作り、伝える・自然災害から人々を守る ⑥日本国憲法と政治のしくみ・世界がかかえる問題と日本の役割
算数	⑥データの調べ方
理科	④月や星の見え方 ⑤台風と天気の変化・人のたんじょう ⑥生き物どうしのかかわり・月と太陽の形・地球に生きる
体育	③体のせいけつとけんこう ⑥病気の予防
家庭	⑤物を生かして住みやすく ⑥まかせてね、今日の食事

実践の評価

各学年、主に国語や総合的な学習の時間での、学校図書館の利用を行っていた。
タブレット端末では調べられない情報を、学校図書館の本を使って粘り強く調べ学習を行っていた。

6 図書館運営計画

(1) 日常的な取り組み

①朝読書（毎週水曜日の朝）②図書ボランティアによる読み語り（1～4年、月1回）③本の貸し出し（中休み・昼休み）

(2) 主な行事の取り組み

①読書旬間（年2回、図書委員や教員による読み語り）②味見読書（5・6年）

(3) 図書委員会などの取り組み

①本の貸し出し ②読書旬間ポスター作り・しおり作り ③おすすめのPOP作り
④環境整備

(4) 環境整備の取り組み

①請求記号を3桁に統一し、分類の理解を深める。色分けをした表示を作成している。
②「調べる学習コンクール」の作品を一定期間展示する。

(5) 司書・外部との連携

①低学年を対象に、足立区立やよい図書館の「学校出張おはなし会」を依頼する。
②図書館ボランティアの方と連携し、季節や行事にあった掲示物を作成・掲示する。

実践の評価

毎月の図書ボランティアの方による読み読りの効果がとても出ていた。児童の本に関する興味関心を引き出すことができたと感じる。

7	学校図書館利活用に関する成果目標	達成基準	達成状況
①	読書活動の更なる推進を図る。	児童一人当たり年間24冊（月2冊）以上の読書、並びに児童一人当たりの貸し出し冊数を年間20冊以上とする。	ほぼすべてのクラスで達成することができた。
②	自ら設定した課題を解決するための方法の一つとして、図書を含めた様々な方法を活用して学習させる。	ICTと図書を併用した調べ学習を実施した回数を各学級5回以上	ほぼすべてのクラスで達成することができた。
③	年間の学習指導内容に合わせ、図書館を活用した学習を展開する。	授業で図書や資料を活用した教員の割合：80%	ほぼすべての教員が達成することができた。

8 学校図書館全体に関する自己評価

本年度は、学校図書館の本の貸し出し冊数が、近年の中で一番多くなった。

この結果から、各クラスの本読みの時間を確保するのみならず、各教科で学校図書館を利用する活動を行うこと、図書委員会の児童の作成したポスターやポップの効果が出た結果と考える。

次年度も引き続き、児童の本に対する興味関心を高め、より多くの貸し出し冊数となるようにしていきたい。